

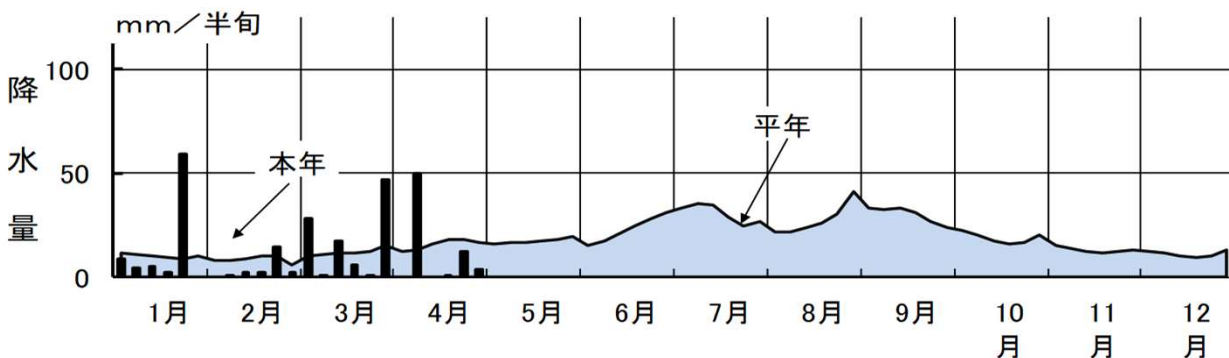
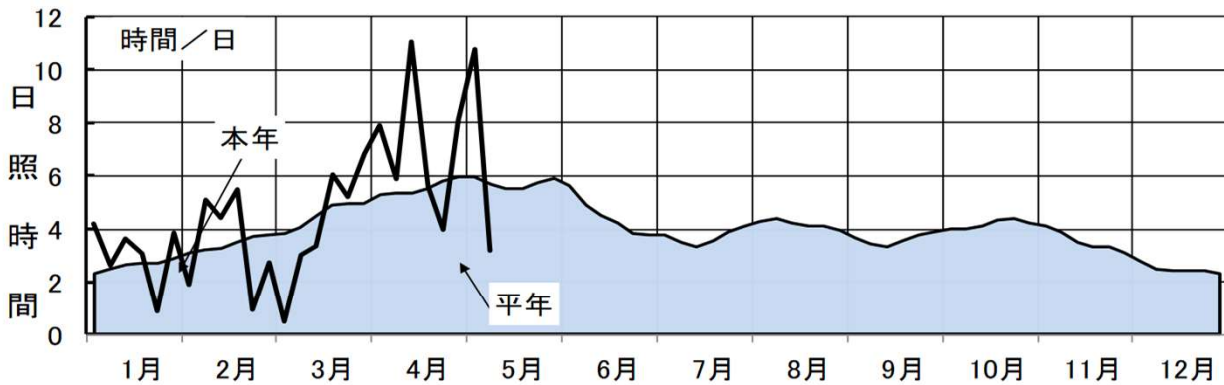
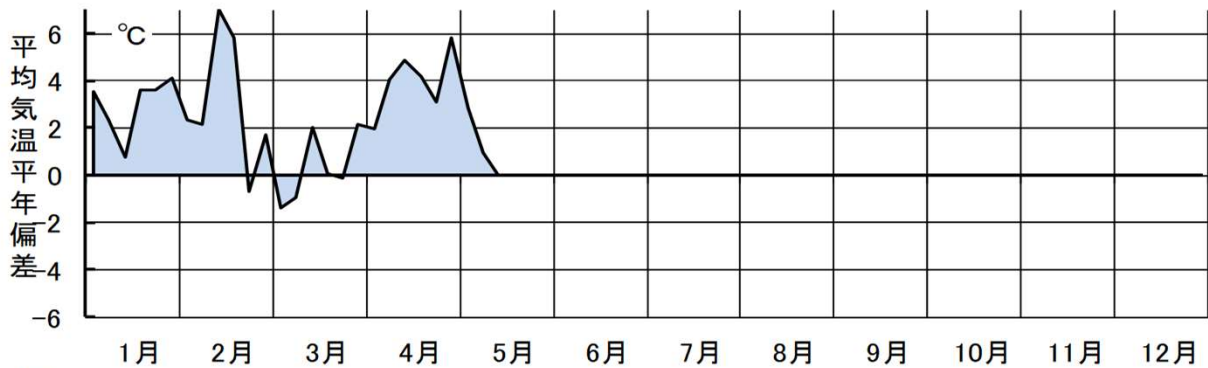
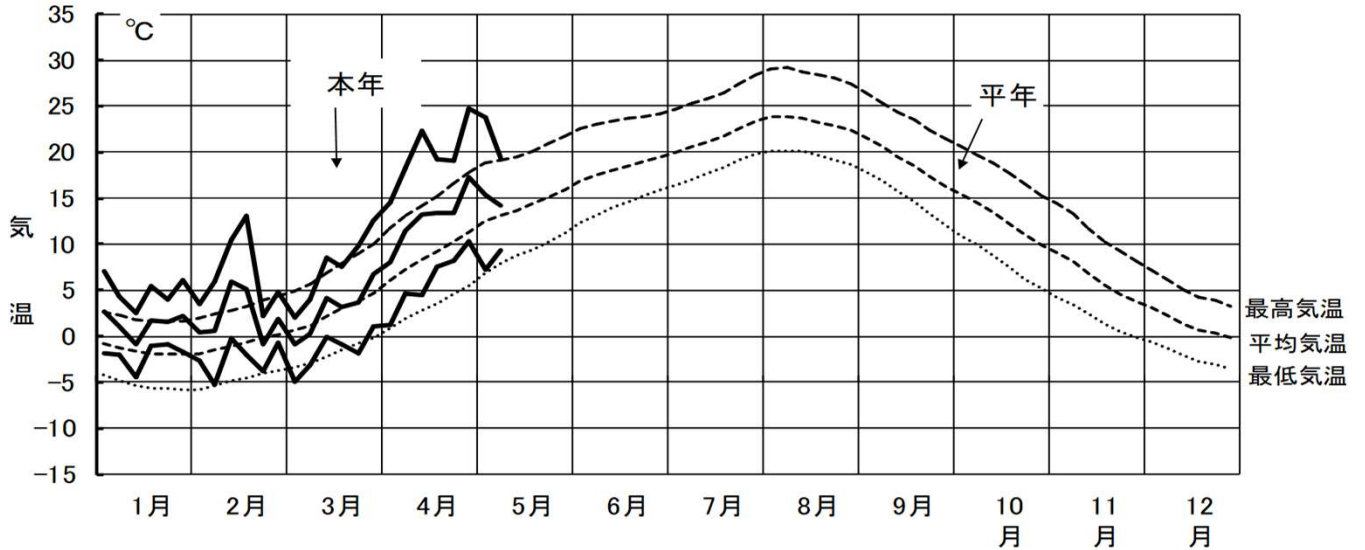
1、気象経過

アメダス若柳観測所（胆沢区若柳字下松原、標高100m）

令和6年(2024年)若柳気象経過図

(アメダス若柳観測所(胆沢区若柳字下松原、標高97m))

R6.5.10現在



2、今後の主な作業について（5月下旬～6月上旬）

8月咲き…整枝、支柱立て、ネット張り 栽培マニュアルP15～16

9月咲き…定植、摘心

3、病害虫防除について

■白さび病防除について

①育苗期間中の母株や、定植後に白さび病の発生が確認されない場合は・・・
予防剤の定期的な散布に努めます。

②育苗期間中の母株や、定植後に白さび病が確認された場合は・・・

例年、梅雨入り後（降雨後）に感染が拡大しますので、下記治療剤の散布を行います。

メジャーフロアブル（2000倍）

※耐性菌の発生リスクが高い薬剤ですので、連用は避けてください。

※着蕾期以降は使用できません。

※展着剤は薬害を生じる可能性があるため使用しないでください。

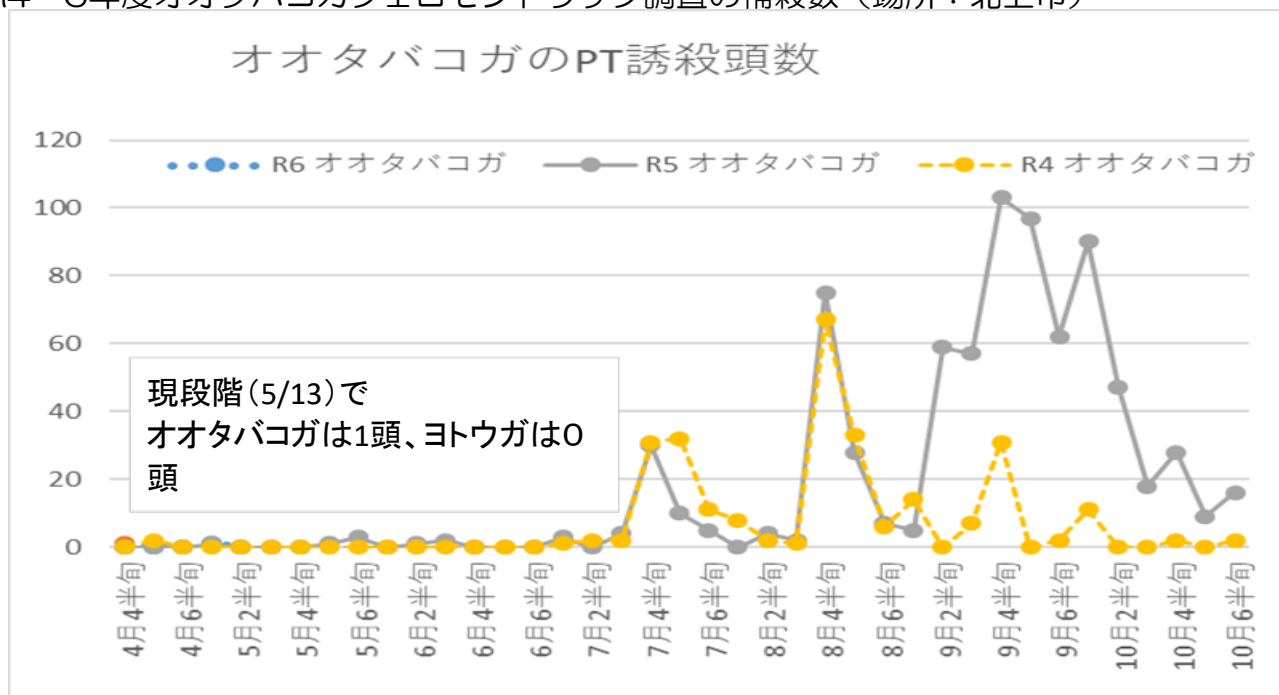
◎農薬を使用する前に、必ず農薬ラベルの表示事項を確認してください。

また、農薬を使用する時は使用基準を遵守し、適正かつ安全に使用してください。

■ヨトウガ、オオタバコガ防除について 栽培マニュアルP41～42

昨年度のように高温で経過した場合はヨトウガ、オオタバコガ共に発生が多くなりやすいです。
特にオオタバコガは、圃場を観察し被害を確認し次第効果のある薬剤を散布します。

OR4～6年度オオタバコガフェロモントラップ調査の補殺数（場所：北上市）



成虫が産卵 → 幼虫 → 食害 につながりますので、薬剤の準備と早期発見に努めましょう。

4、きくのクロゲハナアザミウマの発生について

近年、一関や北上でクロゲハナアザミウマの寄生及び吸汁害が確認されました。本県での発生生態は十分に把握されておらず、また、ハダニ類の被害と誤認されることも多いとのことです。防除は通常のアザミウマの防除薬で対応できます。



クロゲハナアザミウマの成虫（左）



小ぎくの被害葉（右）

5、小ぎくアンケート結果から（平均単収以上の農家で実施率が高い作業）

（1）病虫害防除関係

- ①減収要因となる病虫害はない（3/5戸：60%、回答者平均50%）
- ②防除暦より多く薬剤散布している（4/5戸：80%、回答者平均29%）
- ③新規薬剤も使用している（5/5戸：100%、回答者平均86%）

（2）単収向上に必要と思うこと：病虫害の早期発見、早期対処、1つ1つの作業を実施
白さび病やベと病、害虫の予防と早期防除や、整枝・下葉かき・ネット上げ等を適期に行いましょう。

連絡事項

（1）次回以降の研修会等開催日程について

- ・県内研修会 6月下旬～7月上旬
- ・小菊出荷規格目揃会 7月中下旬

→郵送または外務にて文書発送予定です
→JA広報よりご確認ください

（2）バーコードシール注文書の提出について

「菊類 出荷用バーコードシール注文書」
5月31日（金）までに提出をお願いします。